

アスファルト混合物配合設計報告書

混合物：再生アスファルト安定処理(E C O フォームト)

2026年 2月

鳥取アスコン 株式会社

アスファルト混合物配合設計総括表

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫

1. 使用材料の種類及び産地

材料の種類	製造会社名	産地	材質
碎石5号	坂田碎石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
碎石6号	坂田碎石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
再生骨材	鳥取アスコン株式会社	鳥取県鳥取市古海	再生骨材
砕砂	坂田碎石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
粗砂	住若海運株式会社	佐賀県唐津市	天然砂
細砂	有限会社仁徳砂利	鳥取市伏野	天然砂
StAs(60-80)	ENEOS株式会社	岡山県倉敷市水島	StAs60-80
RJ-T	竹中産業株式会社	東京都千代田区鍛冶町	再生添加剤

2. 配合割合

材料名	碎石5号	碎石6号	再生骨材	砕砂	粗砂	細砂					旧AS	添加剤	新AS	計
室内配合%	12.46	7.67	69.73	4.22	1.44	3.36					(2.98)	0.24	0.88	100.00
ビン名	1ビン	2ビン	3ビン	4ビン	再生骨材	ダスト					旧AS	添加剤	新AS	計
現場配合%	8.63		7.10	12.46	69.73	0.96					(2.98)	0.23	0.89	100.00

3. 合成粒度

ふるい目	53mm	37.5	31.5	26.5	19	13.2	9.5	4.75	2.36	1.18	600 μ m	300	150	75
通過質量百分率%		100.0	100.0	100.0	99.8	88.2		54.4	37.8		26.4	17.8	8.5	6.5
粒度範囲	上限		100			100			60					10
	下限		95			50			20					0

4. 設計アスファルト量の決定

試験項目	最適AS量 (%)	密度 (g/cm ³)	理論密度 (g/cm ³)	空隙率 (%)	飽和度 (%)	安定度 (kN)	フロー (1/100cm)	残留安定度 (%)
試験値	4.1	2.342	2.512	6.8	57.5	7.23	32	90.2
基準値	上限			12			40	
	下限			3		3.43以上	10	75.0以上

※ マーシャル試験の結果はグラフより求めた値である

骨材試験成績表

目的 配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫

ふるい分け試験

	ふるい目の開き	砕石5号	砕石6号	再生骨材	砕砂	粗砂	細砂			
通過質量百分率%	53 mm									
	37.5									
	31.5									
	26.5	100.0								
	19	98.6	100.0							
	13.2	10.1	98.8	100.0		100.0				
	9.5									
	4.75		5.1	64.1	100.0	99.1				
	2.36			41.6	91.9	87.8	100.0			
	1.18									
	600 μm			30.0	34.8	34.9	99.0			
	300			20.4	19.7	11.8	70.8			
	150			11.3	10.8	2.7	4.1			
	75			8.8	8.7	1.0	1.0			

性状試験

試験項目		砕石5号	砕石6号	再生骨材	砕砂	粗砂	細砂			
密度	表乾	2.686	2.681	—	2.647	2.593	2.588			
	かさ	2.670	2.660	—	2.602	2.557	2.545			
	見掛	2.714	2.715	—	2.724	2.653	2.661			
吸水率 / 水分量 %		0.61	0.77	—	1.71	1.41	1.71			
すりへり減量 %		—	11.2	—	—	—	—			
安定性 %		0.6	0.9	—	1.7	5.5	1.3			
微粒分量試験 %		—	—	1.7	—	—	—			
軟石含有量 %		0.3	0.6	—	—	—	—			
偏平細長石片 %		1.0	1.0	—	—	—	—			
単位容積質量		1.560	1.556	—	1.745	1.657	1.549			
粘土塊量 %		0.01	0.03	—	—	—	—			
最大密度		—	—	2.496	—	—	—			
旧As含有量 %		—	—	4.28	—	—	—			
旧As針入度		—	—	24	—	—	—			
圧裂係数		—	—	1.29	—	—	—			

骨 材 粒 度 設 計

目 的 配 合 設 計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫

3. 使用予定骨材の合成粒度

骨 材		砕石5号	砕石6号	再生骨材	砕砂	粗砂	細砂		
配合率 A %		13.0	8.0	69.6	4.4	1.5	3.5		
通過質量百分率 B %	53 mm								
	37.5								
	31.5								
	26.5	100.0							
	19	98.6	100.0						
	13.2	10.1	98.8	100.0		100.0			
	9.5								
	4.75		5.1	64.1	100.0	99.1			
	2.36			41.6	91.9	87.8	100.0		
	1.18								
	600 μm			30.0	34.8	34.9	99.0		
	300			20.4	19.7	11.8	70.8		
	150			11.3	10.8	2.7	4.1		
75			8.8	8.7	1.0	1.0			

各骨材のふるい目の大きさ別配合率 (A) × (B)

各骨材のふるい目の大きさ別配合率 (A) × (B)								合 成	目 標
53 mm									
37.5									100.0
31.5									
26.5	13.0							100.0	
19	12.8	8.0						99.8	75.0
13.2	1.3	7.9	69.6		1.5			88.2	
9.5									
4.75		0.4	44.6	4.4	1.5			54.4	
2.36			29.0	4.0	1.3	3.5		37.8	40.0
1.18									
600 μm			20.9	1.5	0.5	3.5		26.4	
300			14.2	0.9	0.2	2.5		17.8	
150			7.9	0.5	0.0	0.1		8.5	
75			6.1	0.4	0.0	0.0		6.5	5.0

骨材の粒径加積曲線図

目的 配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

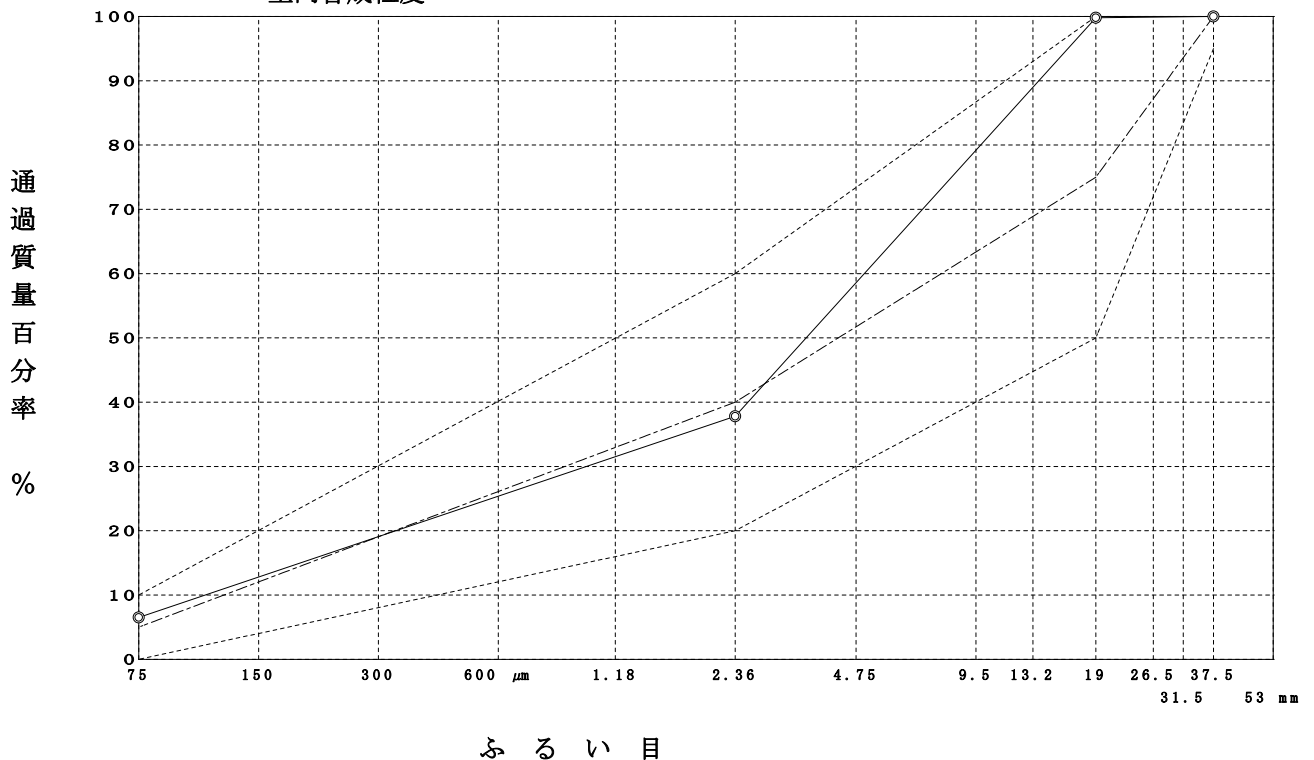
試験者 大西 康夫

5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
		室内合成粒度		
53 mm				
37.5			100.0	95 ~ 100
31.5				
26.5		100.0		
19		99.8	75.0	50 ~ 100
13.2		88.2		
9.5				
4.75		54.4		
2.36		37.8	40.0	20 ~ 60
1.18				
600 μm		26.4		
300		17.8		
150		8.5		
75		6.5	5.0	0 ~ 10

6. 粒径加積曲線図

- 粒度範囲
- 目標粒度
- 室内合成粒度



設計圧裂係数への調整（添加剤量）

目的 配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォームト)

試験者 大西 康夫

試験項目	材料名	再生骨材			規格値
通過質量百分率 %	53 mm				
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2	100.0			
	9.5				
	4.75	64.1			
	2.36	41.6			
	1.18				
	600 μm	30.0			
	300	20.4			
	150	11.3			
75	8.8				
旧アスファルト含有率 %		4.28			3.8 以上
圧裂係数 MPa/mm		1.29			1.70 以下
微粒分量試験による損失量 %		1.7			5 以下
最大密度		2.496			

再生添加剤の性状

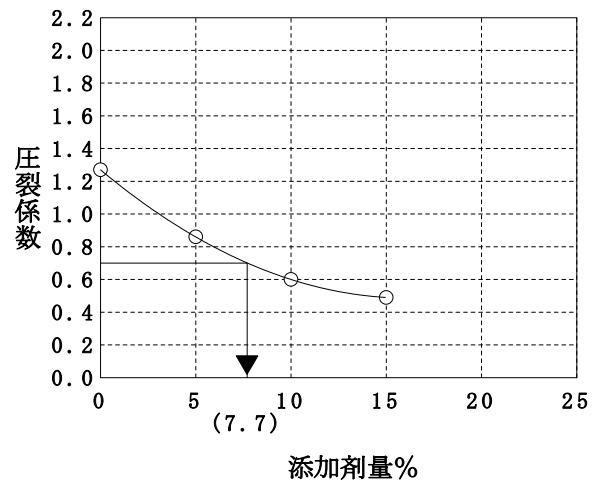
項目	試験値	標準的性状
動粘度 (60℃) mm ² /s	90.02	80~1000
引火点 ℃	298	250以上
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	1.07	2以下
薄膜加熱質量変化率 %	-0.26	±3%以内
密度 (15℃) g/cm ³	0.940	

<添加剤量と圧裂係数の関係>

添加剤量	0.0	5.0	10.0	15.0
圧裂係数	1.27	0.86	0.60	0.49

設計圧裂係数 0.70 (規格値 0.60 ~ 0.80)

設計圧裂係数への調整



<設計圧裂係数への調整結果>

設計添加剤量	7.7
設計添加剤量 (対混合物)	0.25

再生アスファルトの性状

項目	試験値	品質規格
圧裂係数(20℃) MPa/mm	0.70	0.60~0.80
密度 (15℃) g/cm	1.039	1.000以上
マーシャル試験最適混合温度℃	151~157	151~185
マーシャル試験最適締固温度℃	139~144	139~0

理論最大密度計算表

目的 配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫

骨材の種類	A 骨材のみ	B(旧アスファルト含む)
砕石5号	13.0	13.00
砕石6号	8.0	8.00
再生骨材	69.6	72.71
砕砂	4.4	4.40
粗砂	1.5	1.50
細砂	3.5	3.50
計	100.0	103.11
設計 圧裂係数 MPa/mm		0.70
旧アスファルト量 (外割%)		3.11
再生用添加剤量 (対アスファルト量) %		7.70
再生用添加剤量 (対再生混合物) (外割%)		0.25
再生アスファルト量 (%)	3.8	4.3
再生アスファルト量 (外割%)	3.95	4.49
旧アスファルト量 (外割%)	3.11	3.11
再生用添加剤量 (外割%)	0.25	0.25
新アスファルト量 (外割%)	0.59	1.13
	1.68	2.24
	2.80	
		0.92

理論最大密度計算表

目的 配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫

① 骨材の種類	② 配合率(%)	③ 骨材の密度 (g/cm ³)			④ 計算に用いる密度	⑤ ②/④
		表	乾	かさ 見掛		
砕石5号	13.00	2.686	2.670	2.714	2.714	4.790
砕石6号	8.00	2.681	2.660	2.715	2.715	2.947
再生骨材	72.71				2.496	29.131
砕砂	4.40	2.647	2.602	2.724	2.724	1.615
粗砂	1.50	2.593	2.557	2.653	2.653	0.565
細砂	3.50	2.588	2.545	2.661	2.661	1.315
RJ-T	0.25				0.940	0.266
Σ②=	103.36				Σ⑤=	40.629

⑥ アスファルト量 (%)	⑦ アスファルトの密度	⑧ ⑥/⑦	⑨ Σ⑤	⑩ ⑧+⑨	⑪ 理論最大密度 (Σ②+⑥)/⑩	
0.59	1.039	0.568	40.629	41.197	2.523	
1.13		1.088	40.629	41.717	2.505	
1.68		1.617	40.629	42.246	2.486	
2.24		2.156	40.629	42.785	2.468	
2.80		2.695	40.629	43.324	2.450	
0.92		0.885	40.629	41.514	2.512	

マ ー シ ャ ル 安 定 度 試 験

目 的 配 合 設 計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫

アスファルトの種類 再生アスファルト(60-80) アスファルトの密度(A) 1.039 アスファルトの温度 160 ℃ 骨材の温度 210 ℃

突固め温度 140 ℃ 突固め回数 50 回 力計の係数(B) 0.1187

供試体条件	供試体番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	安定フロー値 (kN/m)	
		アスファルト量%	供試体寸法					空中質量(g)	水中質量(g)	表乾質量(g)	容積 (cm ³)	密度		アスファルト積 (%)	空隙率 (%)	骨材間隙率 (%)	飽和度 (%)	安定度			フロー値 (1/100 cm)
			厚さ (cm)									かさ (g/cm ³)	理論 (g/cm ³)					読み (kN)	安定度 (kN)		
			1	2	3	4	平均														
							⑨ - ⑧		⑦ / ⑩		⑬ × ⑭ / (A)		(1 - ⑭ / ⑮) × 100		⑬ + ⑭ / ⑯ × 100		(B) × ⑩				
標準	1	3.8	6.35	6.33	6.34	6.34	6.34	1205.4	696.4	1211.1	514.7	2.342							57	6.77	28
	2		6.31	6.32	6.30	6.30	6.31	1203.9	691.7	1209.7	518.0	2.324							59	7.00	30
	3		6.39	6.41	6.39	6.41	6.40	1204.2	696.1	1210.1	514.0	2.343							56	6.65	30
	平均												2.336	2.523	8.5	7.4	15.9	53.5		6.81	29
標準	4	4.3	6.31	6.31	6.30	6.31	6.31	1210.0	698.6	1215.3	516.7	2.342							62	7.36	33
	5		6.40	6.38	6.38	6.39	6.39	1208.3	695.7	1213.2	517.5	2.335							57	6.77	34
	6		6.44	6.46	6.45	6.45	6.45	1208.2	699.1	1213.4	514.3	2.349							64	7.60	34
	平均												2.342	2.505	9.7	6.5	16.2	59.9		7.24	34
標準	7	4.8	6.38	6.37	6.38	6.38	6.38	1215.5	700.6	1219.6	519.0	2.342							57	6.77	38
	8		6.44	6.43	6.43	6.45	6.44	1214.3	695.5	1218.4	522.9	2.322							65	7.72	39
	9		6.39	6.39	6.38	6.38	6.39	1214.4	699.4	1218.8	519.4	2.338							61	7.24	39
	平均												2.334	2.486	10.8	6.1	16.9	63.9		7.24	39
標準	10	5.3	6.38	6.38	6.37	6.38	6.38	1220.0	699.9	1223.5	523.6	2.330							53	6.29	44
	11		6.34	6.35	6.33	6.34	6.34	1220.8	699.3	1224.4	525.1	2.325							61	7.24	43
	12		6.31	6.31	6.30	6.31	6.31	1221.8	696.8	1225.3	528.5	2.312							56	6.65	42
	平均												2.322	2.468	11.8	5.9	17.7	66.7		6.73	43
標準	13	5.8	6.26	6.25	6.25	6.27	6.26	1225.6	697.4	1228.4	531.0	2.308							52	6.17	48
	14		6.26	6.25	6.24	6.24	6.25	1226.2	700.8	1228.9	528.1	2.322							51	6.05	49
	15		6.37	6.36	6.35	6.36	6.36	1227.1	696.8	1229.9	533.1	2.302							53	6.29	47
	平均												2.311	2.450	12.9	5.7	18.6	69.4		6.17	48

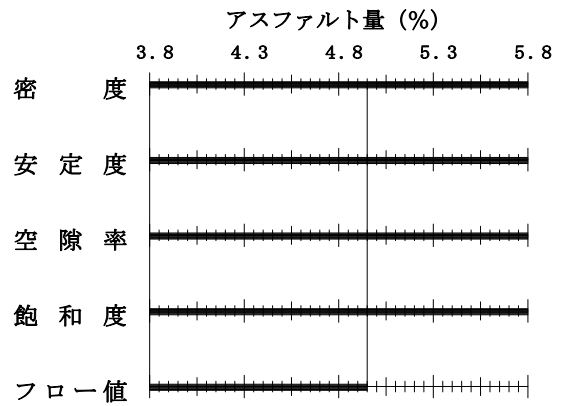
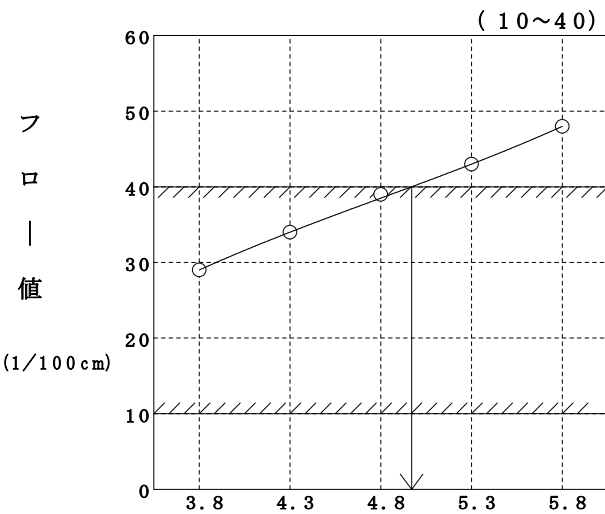
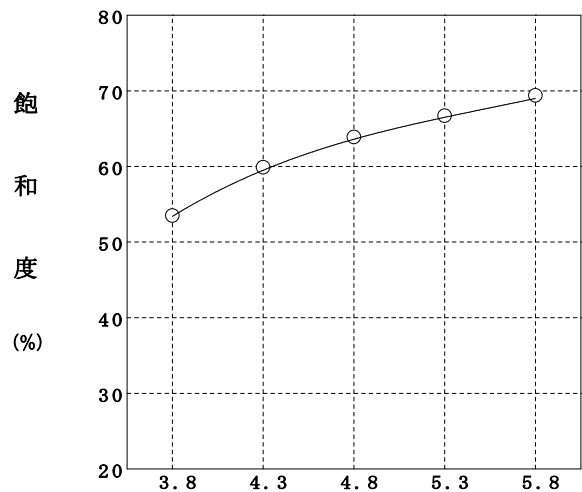
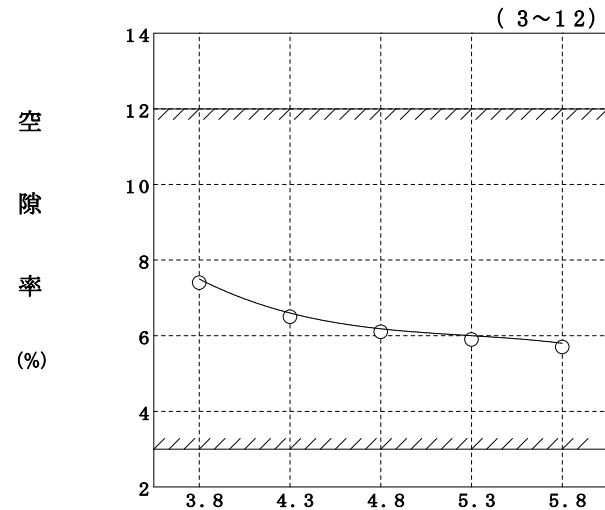
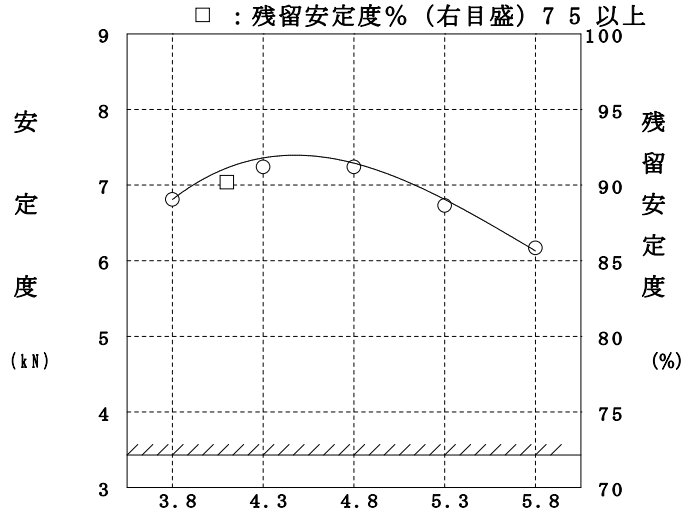
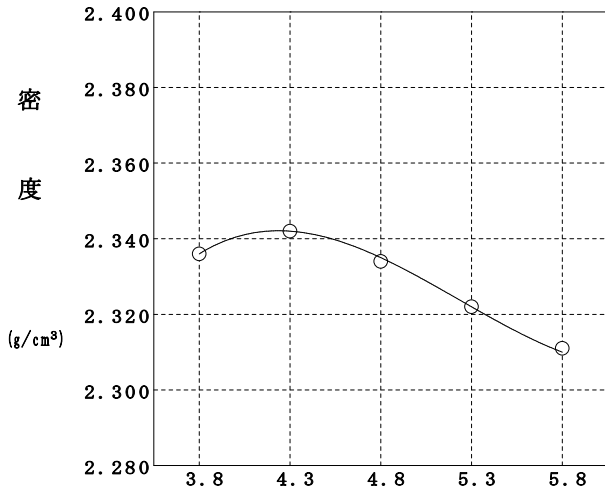
設計アスファルト量の決定

目的 配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫



共通範囲 3.80 ~ 4.95 (%)

設計アスファルト量 4.1 (%)

グラフより共通範囲の中央値は4.4%であるが過去の実績に基づきOACを4.1%に設定した。

アスファルト量 (%)

ホ ッ ト ビ ン 粒 度 設 計

目 的 配 合 設 計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(E C O フォー ム ト)

試 験 者 大西 康夫

3. 使用予定骨材の合成粒度

骨 材		1 ビン	3 ビン	4 ビン	再生骨材	ダスト			
配 合 率 A %		9.0	7.4	13.0	69.6	1.0			
通 過 質 量 百 分 率 B %	53 mm								
	37.5								
	31.5								
	26.5			100.0					
	19		100.0	99.3					
	13.2		99.3	9.9	100.0				
	9.5								
	4.75	100.0	0.2		64.1				
	2.36	95.6			41.6				
	1.18								
	600 μm	58.2			30.0	100.0			
	300	29.7			20.4	98.0			
	150	4.3			11.3	86.2			
	75	1.5			8.8	74.6			

各骨材のふるい目の大きさ別配合率 (A) × (B)

各骨材のふるい目の大きさ別配合率 (A) × (B)									合 成	設 計
53 mm										
37.5										
31.5										
26.5				13.0					100.0	100.0
19			7.4	12.9					99.9	99.8
13.2			7.3	1.3	69.6				88.2	88.2
9.5										
4.75	9.0	0.0			44.6				54.6	54.4
2.36	8.6				29.0				38.6	37.8
1.18										
600 μm	5.2				20.9	1.0			27.1	26.4
300	2.7				14.2	1.0			17.9	17.8
150	0.4				7.9	0.9			9.2	8.5
75	0.1				6.1	0.7			6.9	6.5

ホットビンの粒径加積曲線図

目的 配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム®)

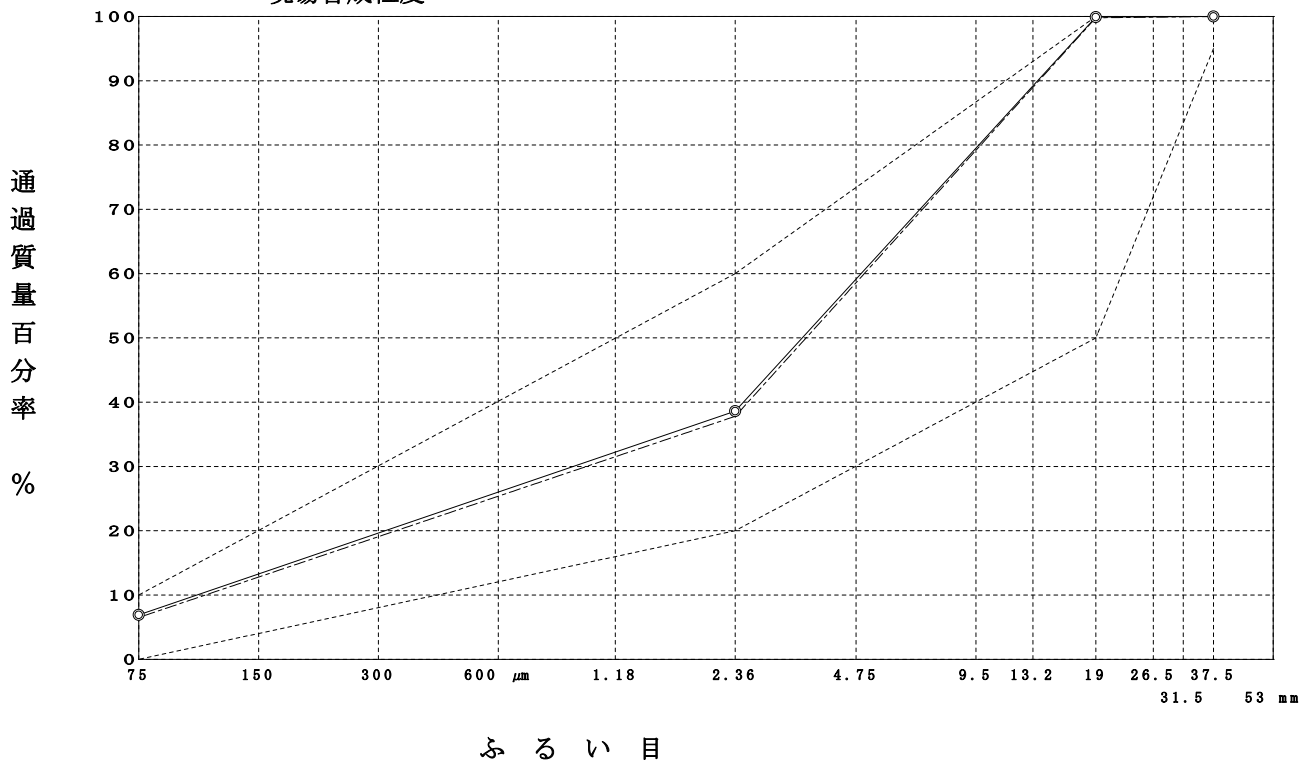
試験者 大西 康夫

5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
		現場合成粒度		
53 mm				
37.5				95 ~ 100
31.5				
26.5		100.0	100.0	
19		99.9	99.8	50 ~ 100
13.2		88.2	88.2	
9.5				
4.75		54.6	54.4	
2.36		38.6	37.8	20 ~ 60
1.18				
600 μm		27.1	26.4	
300		17.9	17.8	
150		9.2	8.5	
75		6.9	6.5	0 ~ 10

6. 粒径加積曲線図

- 粒度範囲
- 目標粒度
- 現場合成粒度



理論最大密度計算表

目的配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫

骨材の種類	A 骨材のみ	B (旧アスファルト含む)
砕石5号	13.0	13.00
砕石6号	8.0	8.00
再生骨材	69.6	72.71
砕砂	4.4	4.40
粗砂	1.5	1.50
細砂	3.5	3.50
計	100.0	103.11
設計圧裂係数 MPa/mm		0.70
旧アスファルト量 (外割%)		3.11
再生用添加剤量 (対アスファルト量) %		7.70
再生用添加剤量 (対再生混合物) (外割%)		0.25
再生アスファルト量 (%)	4.1	
再生アスファルト量 (外割%)	4.28	
旧アスファルト量 (外割%)	3.11	
再生用添加剤量 (外割%)	0.25	
新アスファルト量 (外割%)	0.92	

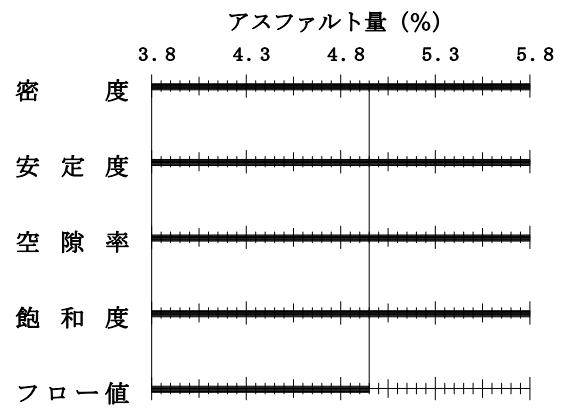
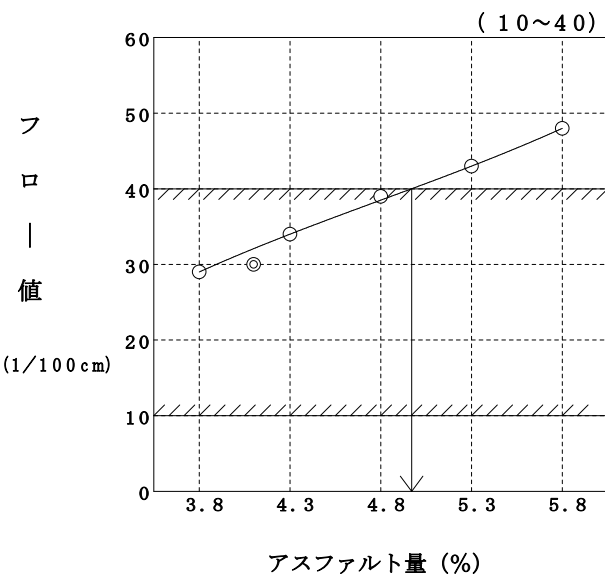
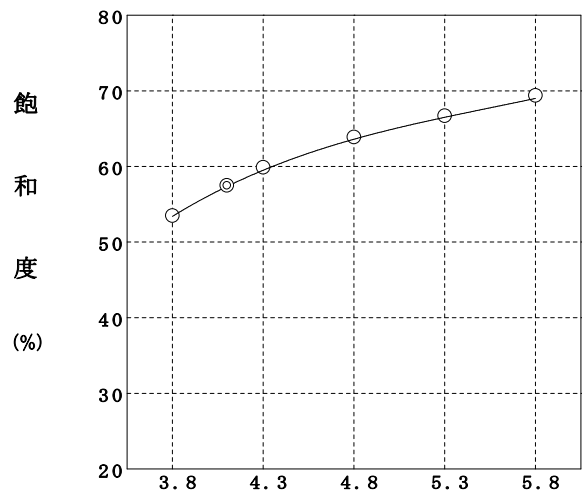
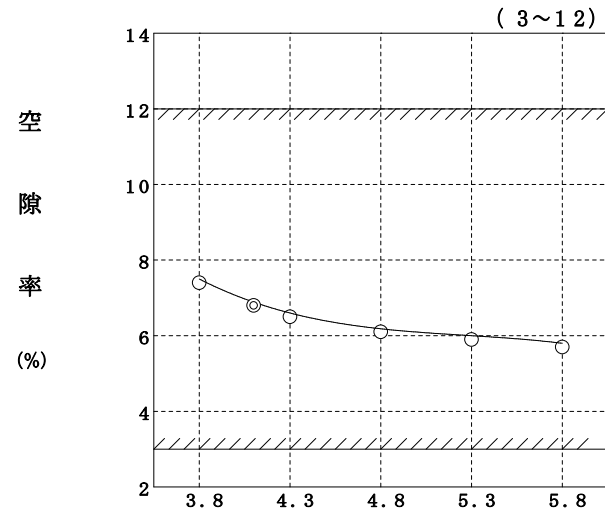
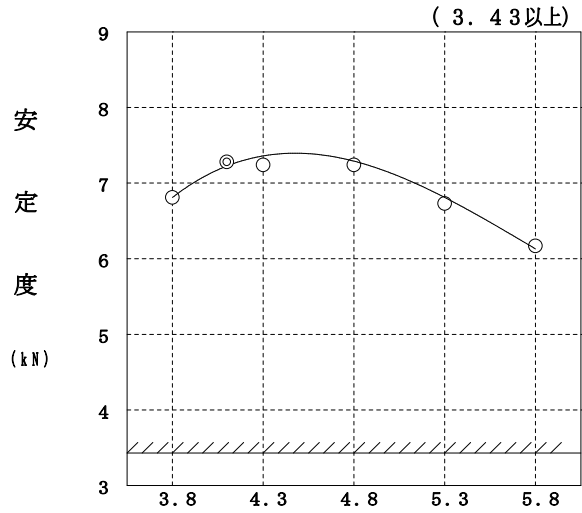
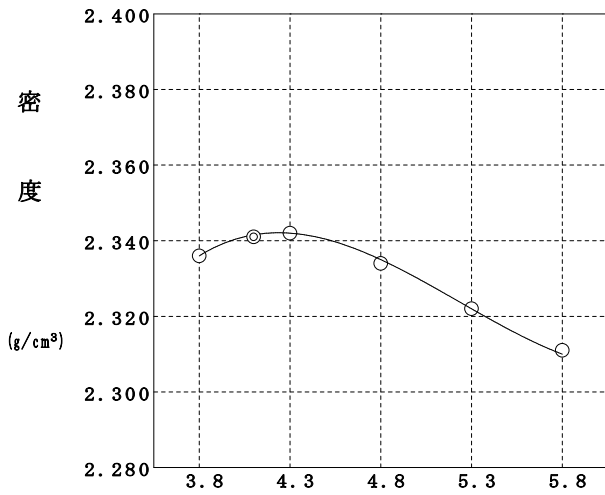
マーシャル安定度試験

目的 配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫



共通範囲 3.80 ~ 4.95 (%)

設計アスファルト量 4.1 (%)

グラフより共通範囲の中央値は4.4%であるが過去の実績に基づきOACを4.1%に設定した。

現場 マーシャル安定度試験 (中温化)

目的 配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫

アスファルトの種類 再生アスファルト(60-80) アスファルトの密度(A) 1.039 アスファルトの温度 160℃

骨材の温度 200℃ 突固め温度 -℃ 突固め回数 50回 力計の係数(B) 0.1190kN

試験条件	供試体番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
		突固め温度(℃)	供試体平均厚(cm)	空中質量(g)	水中質量(g)	表乾質量(g)	容積(cc)	密度かさ論(g/cm ³)	ア容スファルト積(%)	空隙率(%)	空隙率(%)	骨材間隙率(%)	飽和度(%)	安定度力計の読み(kN)	安定度(kN)	フロ-値(1/100cm)	安定度/フロ-値(kN/m)
							⑤-④	③/⑥		①×⑦(A)		⑨+⑩	⑫/⑬×100		(B)×⑭		
標準	1		6.33	1214.6	701.6	1218.5	516.9	2.350						64	7.62	32	
	2	140	6.36	1212.8	699.1	1217.4	518.3	2.340						57	6.78	33	
	3		6.36	1214.6	703.3	1219.1	515.8	2.355						64	7.62	28	
	As量 4.1																
	平均							2.348	2.512	9.3	6.5	15.8	58.9		7.34	31	2368
標準	4		6.33	1213.3	697.7	1217.5	519.8	2.334						62	7.38	29	
	5	130	6.30	1214.1	702.7	1218.1	515.4	2.356						62	7.38	30	
	6		6.42	1215.2	700.6	1219.9	519.3	2.340						59	7.02	30	
	As量 4.1																
	平均							2.343	2.512	9.2	6.7	15.9	57.9		7.26	30	2420
標準	7		6.30	1213.1	698.0	1217.8	519.8	2.334						62	7.38	27	
	8	120	6.28	1213.6	699.5	1217.5	518.0	2.343						61	7.26	30	
	9		6.41	1213.2	698.6	1217.5	518.9	2.338						59	7.02	33	
	As量 4.1																
	平均							2.338	2.512	9.2	6.9	16.1	57.1		7.22	30	2407
標準	10		6.40	1215.1	699.6	1219.5	519.9	2.337						58	6.90	29	
	11	110	6.42	1213.7	696.4	1218.2	521.8	2.326						59	7.02	27	
	12		6.34	1215.4	695.1	1219.9	524.8	2.316						59	7.02	30	
	As量 4.1																
	平均							2.326	2.512	9.2	7.4	16.6	55.4		6.98	29	2407
	平均																

⑩ = (1 - ⑦/⑧) × 100

現場 混合物の突固め温度下限値の確認

目的 配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

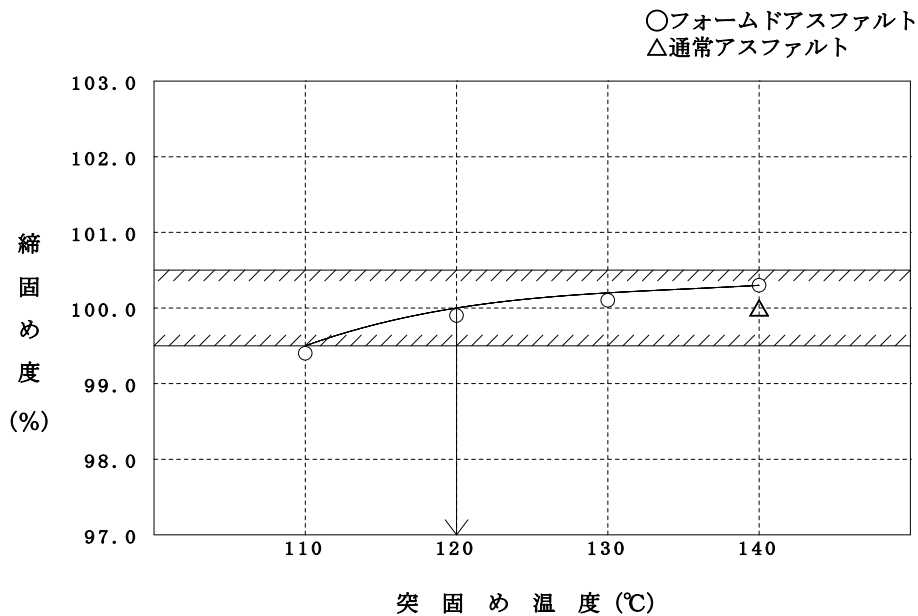
混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォームト)

試験者 大西 康夫

フォームドアスファルト使用時の混合物にて、突固め温度を変化させた供試体密度を測定し、縮固め度から突固め温度下限値を決定するとともに、混合物性状確認を行う。

縮固め度は、フォームドアスファルト未使用の通常アスファルト時に決定した突固め温度で作製した供試体の密度を基準密度とする。

項目				理論密度 (g/cm ³)	密度 (g/cm ³)	空隙率 (%)	飽和度 (%)	安定度 (kN)	フロー値 (1/100 cm)	縮固め度 (%)
フォームドアスファルト	突固め温度	As量	規格	—	—	3~12	—	3.43以上	10~40	—
未使用	140℃	4.1%		2.512	2.341	6.8	57.5	7.28	30	100.0
使用	140℃			2.512	2.348	6.5	58.9	7.34	31	100.3
使用	130℃			2.512	2.343	6.7	57.9	7.26	30	100.1
使用	120℃			2.512	2.338	6.9	57.1	7.22	30	99.9
使用	110℃			2.512	2.326	7.4	55.4	6.98	29	99.4



グラフより、

縮固め度100.0%が得られる突固め温度は120℃となった。

縮固め度99.5%~100.5%が得られる突固め温度は110℃~140℃となった。

現場 突固め下限温度でのマーシャル安定度試験

目的 配合設計
試験年月日 2026年 2月25日
混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])
試験者 大西 康夫

アスファルトの種類 再生アスファルト(60-80)
アスファルトの密度(A) 1.039
アスファルトの温度 160℃
骨材の温度 210℃
突固め温度 120℃
突固め回数 50回
力計の係数(B) 0.1190kN

試験条件	供試体番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
		アスファルト量 (%)	供試体平均厚 (cm)	空中質量 (g)	水中質量 (g)	表乾質量 (g)	容積 (cc)	密度 (g/cm ³)	かさ論 (g/cm ³)	ア容スファルト積 (%)	空隙率 (%)	骨材間隙率 (%)	飽和度 (%)	安定力計の読み	安定度 (kN)	フロー値 (1/100 cm)	安定度/フロー (kN/m)
						⑤-④	③/⑥			①×⑦ (A)	⑨+⑩		⑫/⑬×100	⑭×⑮			
標準	1	6.33	1212.8	699.6	1217.4	517.8	2.342							60	7.14	30	
	2	6.35	1213.1	699.3	1217.3	518.0	2.342							63	7.50	28	
	3	6.30	1214.3	699.6	1218.8	519.2	2.339							61	7.26	31	
	平均							2.341	2.512	9.2	6.8	16.0	57.5		7.30	30	2433
	平均																
	平均																
	平均																
	平均																

⑩ = (1 - ⑦/⑧) × 100

現場配合の決定

目的配合設計

試験年月日 2026年 2月25日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理(ECOフォーム[®])

試験者 大西 康夫

1バッチ 1000 kg

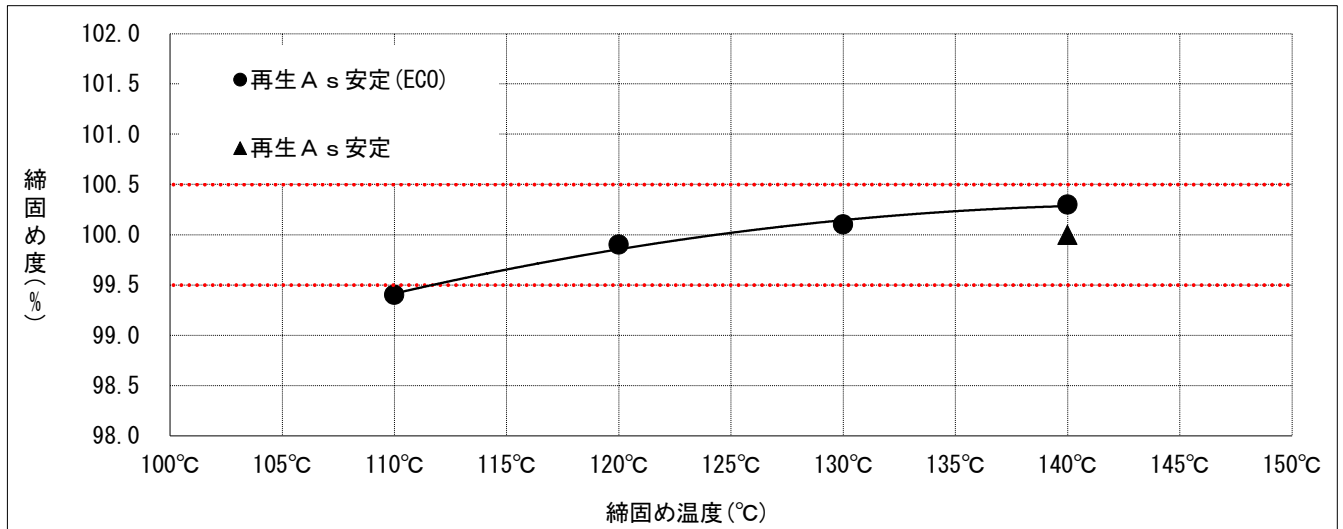
	骨材配合比(%)	外割配合比(%)	内割配合比(%)	1バッチ質量(kg)	骨材累加質量(kg)
1 ビン	9.0	9.00	8.63	86	86
3 ビン	7.4	7.40	7.10	71	157
4 ビン	13.0	13.00	12.46	124	281
ダスト	1.0	1.00	0.96	10	10
再生骨材	69.6	72.71	69.73	700	700
旧アスファルト		(3.11)	(2.98)		
再生用添加剤		0.24	0.23		
新アスファルト		0.93	0.89	9	9
合計	100.0	104.28	100.00	1000.0	1000.0

※添加剤はドライヤ内添加のため
再生材の計量値に含まれます。

フォームド混合物の温度管理目標値一覧

混合物の締固め特性

項目	規格値	混合物の種類					
		再生 A s 安定	再生 A s 安定 (ECO)				
締固め温度	°C	-	140°C	140°C	130°C	120°C	110°C
密度	g/cm ³	-	2.341	2.348	2.343	2.338	2.326
締固め度	%	-	100.0	100.3	100.1	99.9	99.4
空隙	%	3~12	6.8	6.5	6.7	6.9	7.4
安定度	kN	3.43以上	7.28	7.34	7.26	7.22	6.98
フロー	1/100cm	10~40	30	31	30	30	29



温度管理目標値

	低 減 温 度	°C	0	10	20	30
	夏季	出 荷 温 度	°C	160±10	150±10	140±10
敷 均 温 度		°C	140以上	130以上	120以上	110以上
初 期 転 圧 温 度		°C	140±10	130±10	120±10	110±10
冬季	出 荷 温 度	°C	160±10	150±10	140±10	130±10
	敷 均 温 度	°C	140以上	130以上	120以上	110以上
	初 期 転 圧 温 度	°C	140±10	130±10	120±10	110±10

※上記の温度管理目標値につきましては、当プラントの推奨する温度であり、規格値ではありませんのでご注意ください。
 ※現場条件（現場までの距離・施工方法・気象条件）等が異なるため、温度範囲につきましては、所定の締固め度が得られる範囲内で、各現場毎に検討して下さい。